

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	：十分達成できている
B	：おおむね達成できている
C	：やや不十分である
D	：不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上については、校内研究を通して教職員の意識、実践が高まり、漢字力をはじめとした学力定着につなげることができた。次年度は、更に授業改善を行い、学力向上を目指したい。 ・支援が必要な児童に対して、教育相談体制の活用、関係機関との連携を図ることで、組織的な対応を行うことができた。今後、支援が必要な児童に対して早期対応ができるように、校内支援体制の整備、関係機関との連携強化を図りたい。 ・教職員の業務改善に向けて、校時表の改善や連絡事項のWEB管理などを行い、業務改善を進めることができた。次年度は、更に授業時数の改善などを行うことで、業務改善を進めたい。
----------------------	--

2 学校教育目標	<p>心と知恵と技を研ぐ上峰っ子の育成</p> <p>～ふるさとを愛し、夢に向かって輝くために～</p>
-----------------	---

3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> ①児童の十分な学力定着に向けて、校内研究の新たな取組視点を共通理解・共通実践し、日々の授業において授業改善を行う。 ②「いじめの早期発見・早期対応」に向けて、再度いじめの定義を全職員で共通理解し、アンケート・児童観察等をもとに積極的認知・指導に取り組む。「不登校児童」については、学校・家庭・関係機関の連携を軸に支援を進めていく。 ③「気になる子、配慮を要する子」に関する教職員の専門性を高め、チーム上峰として職員全体で共通理解した適切な支援へと繋げる。
-------------------	---

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
----------------------	-------------	---------------

(1) 共通評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・校内研とも関連をつけながら、子供の主体性向上と教師力向上に取り組む。	○「もっと知りたい自分の考えを広げたい」の質問に対して、肯定的な回答をする児童の割合85%以上。 ○「授業づくりのステップ1・2・3」や「授業力向上シート」を活用し、教師力を向上させることができた教師の割合85%以上。	B	・肯定的な回答の割合は82%であった。校内研を活性化させ、さらに向上を図る。 ・教師力を向上させることができた教師の割合は94%であった。	A	・肯定的な回答の割合は78%であった。 ・教師力を向上させることができた教師の割合は100%であった。	A	知恵をとぐ部(武廣)
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○アンケート「道徳の授業を年間計画を基に意図的に行って、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に取り組んでいる」に肯定的な回答をした教員の割合80%以上。	A	・アンケート「道徳の授業を年間計画を基に意図的に行って、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に取り組んでいる」に肯定的な回答をした教員の割合は100%であった。	A	・アンケート「道徳の授業を計画的に行って、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成に取り組んでいる」に肯定的な回答をした教員は100%だった。 ・授業参観で保護者参加型の道徳の授業を行い、学級通信などでその様子を伝えることができた。	A	・校内「ありがとう」があふれていて、子供たちの心が育っていることがよくわかる。家庭との連携も図れている。民生委員も参加してみたい。
●心の教育	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○アンケート「困ったことがあったとき、話を聞ける先生がいる」に肯定的な回答をした児童の割合80%以上。	A	・アンケート「困ったことがあったとき、話を聞ける先生がいる」に肯定的な回答をした児童の割合は89%であった。	A	・アンケート「困ったことがあったとき、話を聞ける先生がいる」に肯定的な回答をした児童の割合は88%であった。 ・いじめの未然防止に向けて研鑽を深めたり、いじめアンケートを受けて、学年団を中心にSC.SSWIに相談しながら組織的な事後対応をとりやすくなった。 ・「心のアンケート」や「ありがとうの木」はじめの未然防止対策などについて「心部」より保護者に知らせた。	A	・教師と子供たちが信頼関係を築き、いじめの早期発見、早期解決につながってほしい。いじめ問題はわかりにくいので、気を付けておいてほしい。
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれてる」と回答した児童生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした児童生徒80%以上	A	●「先生はあなたのよいところを認めてくれる」と回答した児童80%、「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした児童83%だった。最終評価に向けて、月目標でも認めるということを取り上げ、数値の向上を目指す。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれる」と回答した児童89%、「将来の夢や目標を持っている」に肯定的な回答をした児童87%だった。最終評価に向けて、月目標でも認めるということを取り上げ、数値の向上を目指す。	A	・中間評価からさらに肯定的な回答が増えていることから、教師がしっかりと子供たちと向き合っていたことがわかる。子供たちを認めて褒めて育てている。
	○人権・同和教育の推進	○道徳の学習や人権集会を通して、アンケート「人を思いやることができるようになった」に肯定的な回答をした児童の割合80%以上。	A	・道徳の学習や人権集会を通して、アンケート「人を思いやることができるようになった」に肯定的な回答をした児童の割合は94.6%であった。	A	・道徳の学習や人権集会を通して、アンケート「人を思いやることができるようになった」に肯定的な回答をした児童の割合は93.4%であった。	A	・「人を思いやることができるようになった」と子供たちが自覚できているところがすばらしい。戦争や災害で犠牲になっている子供たちにも目を向けてもらいたい。
●健康・体づくり	●運動習慣の改善や定着化	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒60%以上 ○アンケート「～大会・～記録会には、練習を頑張って取り組めたか」に、肯定的な回答をした児童の割合90%以上。	A	・アンケート「体育の授業を工夫したり、業間や屋休みに外遊びを促したりと、体を鍛えることを推奨している」に肯定的な教員は90%以上だった。しかし、1日に60分以上運動やスポーツをしている児童は73%程であった。アンケート「～大会などの行事において、練習を頑張りがちで取り組むよう指導している。」に肯定的な教員は100%で、同様のアンケートに対して児童の肯定的な意見は93%程であった。	A	・アンケート「体育の授業を工夫したり、業間や屋休みに外遊びを促したりと、体を鍛えることを推奨している」に肯定的な教員は90%以上だった。また、1日に60分以上運動やスポーツをしている児童は80%程に伸びた。アンケート「～大会などの行事において、練習を頑張りがちで取り組むよう指導している。」に肯定的な教員は100%で、同様のアンケートに対して児童の肯定的な意見は90%程であった。	A	・業間や屋休み、手伝いなどで体を動かす習慣が身に付いていてすばらしい。上峰の子供たちはよく体を動かしている。
	○望ましい生活習慣の形成	○アンケート「早寝早起き朝ごはんを毎日行う取り組み」に肯定的な回答をした児童の割合85%以上。	A	・アンケート「基本的な生活習慣の定着を図るために、早寝、早起き、朝ごはんについて継続的に指導を行っている」に肯定的な回答をした教員は90%であった。	A	・アンケートでは、「早寝早起き朝ごはんを毎日行っている」と回答した児童が95%となり、目標を達成した。これは、保護者の高い関心と協力に加え、栄養教諭・養護教諭が担任と連携した継続的な啓発によるものと考えられる。	A	・「早寝早起き朝ごはん」の取組がすばらしいのは、学校と家庭の連携がしっかりとできているからだと思う。引き続き100%を目指してほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限(月45時間)を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	A	・教職員アンケート「18:45までの退勤、時間外勤務月45時間以内ができた」に肯定的な回答をした教職員の割合は83%だった。 ・1～12月までの職員の年休取得の平均は10日だった。	A	・教職員アンケート「18:45までの退勤、時間外勤務月45時間以内ができた」に肯定的な回答をした教職員の割合は94%だった。 ・1～12月までの職員の年休取得の平均は14.2日だった。	A	・先生方には引き続き業務の効率化に取り組む、しっかりと年休を取得してほしい。
	○業務改善・働き方改革の推進	○アンケート「自分の時間を確保し、心身の休養に充てることができた」に、肯定的な回答をした教員の割合80%以上。	A	アンケート「自分の時間を確保し、心身の休養に充てることができた」に、肯定的な回答をした教員の割合87%だった。	A	・アンケート「自分の時間を確保し、心身の休養に充てることができた」に、肯定的な回答をした教員100%だった。	A	・「チーム担任制」も働き方改革のひとつだと感じた。先生方には自分の時間をしっかりと確保してほしい。
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○アンケート「特別支援教育に関する知識や技能をより学ぶ必要がある」と積極的な回答をした教員の割合が90%以上。 ○アンケート「不登校、学力不振等、特別支援O、SC、SSW等の教育相談体制を活用したり、ケース会議を通して相談したり対応したりしている」に、肯定的な回答をした教員の割合が80%以上。	A	・職員への特別支援教育に関するニーズを聞き取り、ニーズに見合う研修会を計画、実施する。 ・必要に応じてケース会議を実施し、支援が必要な児童の情報を共有し、全ての教員で組織的に対応する。	A	・特別支援教育の研修への関心は高く、何らかの形で研修を深めている教員の割合は100%だった。SCやSSWと情報を共有しながら組織的な対応がスムーズにできていた。教職員の意識調査でも活用している回答された割合は100%だった。	A	・特別支援教育に対して、全職員で研修を深めていて、専門性が高まっていた。SC、SSWとの連携もすばらしい。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目			中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果		
○ICTを活用した個に応じた学びの充実	○ICT活用による学びの保障と個に応じた教育活動の実践	○アンケート「タブレットPCを活用し、自分にあった方法で学習に取り組むことができる。」に、肯定的な回答をした児童の割合85%以上。	A	アンケート「タブレットPCを活用し、自分にあった方法で学習に取り組むことができますか」に、肯定的な回答をした児童の割合は85%だった。	A	アンケート「タブレットPCを活用し、自分にあった方法で学習に取り組むことができますか」に、肯定的な回答をした児童の割合は89%だった。	A	・学級閉鎖等でも使用するなど、タブレットPCの活用が積極的になされていてすばらしい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ol style="list-style-type: none"> ① 校内研究の新たな視点を全職員で共通理解・共通実践し、授業改善に取り組んだことで、教師力の向上につながり、子供たちの学力定着に向けた指導の質が高まった。今後は、取組の効果検証を行いながら、より効果的な取組になるよう研究の内容や方法を工夫していく。 ② アンケートや児童観察を活用したいじめの積極的認知と早期対応が組織的に進められた。また、不登校児童への支援も家庭や関係機関との連携の中で着実に実行されている。今後は、早期対応の視点を一層強化し、継続的な支援体制の充実を図る。 ③ 「気になる子、配慮を要する子」への理解を深めるための研修や情報共有により、教職員の専門性が高まり、組織的な支援体制の充実につながった。今後は、チームとしての連携をさらに強化し、一人一人に応じた支援の質の向上を目指す。
-----------------------	---